

森重が初優勝

スピードスケートW杯 第3戦 500m



世界の強豪を抑え、表彰台の中央に立った森重

日本代表としてスピードスケート・ワールドカップ前半戦に初参戦中の森重航(経営3・山形中央高)が、12月5日に行われた第3戦ソルトレークシティー大会(米国)の男子500mで2日目で初優勝を果たした。タイムは自己ベストの33秒99で、33秒台は日本人二人目。2月に開幕する北京オリンピック出場に向け、力強く前進した。

日本人二人目の33秒台

北京五輪へ視界良好

500mは各大会で2回、毎レース楽しんで行われる。森重は第1戦トマショフマンゾウエツキ大会(ポーランド)の2日目で3位(34秒74)、第3戦の1日目で2位(34秒09)と、6戦を経験して3回表彰台に立った。W杯初参戦で「国内大会よりもワクワク感が大きい」と話していた森重。初優勝について「想像以上の力を出すことができた。1日目はあと一歩で優勝に届かず、もっと攻めた滑りが必要だと感じた。2日目はスピードを怖がらず、常に加速するイメージを持ってレースに臨んだ。タイムを

見た時にはとてもうれしかった」と振り返った。

今後について「12月29日からはオリンピックに向けて代表選考会があるので、集中していきたい」と意気込んだ。

同じくW杯に参戦中の野々村太陽(経営2・白樺学園高)は第1戦でデ

イビジョンBの1500mで2位、1000mで3位。第2戦からは森重とともに上位グループに出場しており、世界の舞台で経験を積んでいる。

(小田島美玖・文1)

菊池が優勝

全日本学生スピードスケート選手権大会 11月27、28日、群馬県・伊香保リンク

菊池健太(経営1・白樺学園高)が男子5000mで1位、1万mで2位となった。屋外リンクでのレースにうまく対応し、「思い切ったレースができた。1月の日本学生水上競技選手権大会で部に貢献できるように、トレーニングに取り組んでいく」と語った。(小田島

準優勝 男子エペ団体

全日本学生フェンシング選手権大会 11月17、21日、世田谷区・駒沢屋内球技場

男子がエペ団体で準優勝し、12月に行われる全日本選手権の出場権を掴んだ。順調にトーナメントを勝ち上がったものの、決勝では早大に42-43とわずかに点差で敗れた。チームをまとめることはもちろん、エースとして勝利に貢献したエペ団体主将の齊藤憲司(商4・東亜学園高)は「チームリーダーとしての役割を果たした。」(山口由結・文1)

日本一に輝く



バンタム級 原田

ノーシードから頂点に駆け上がった原田

全日本ボクシング選手権大会 11月24、28日、墨田区総合体育館

バンタム級の原田周大(法2・豊国学園高)がノーシードから勝ち上がり、日本一に輝いた。原田は「やりました。日本一です！」と喜びの声をあげた。今大会に向け「頭で考へている動きと、実際に体を動かした時の感覚の

差を縮めることを練習中から意識した。また、違うスポーツを見て動きを取り入れてみたり、将棋を指して頭脳を鍛えたりした」と広い視野を持って、練習や日々の過ごし方を工夫したという。

試合中は、「自分の動きを出すことを心掛けていた。試合を楽しみながらも、『絶対に勝つ』という強い気持ちを持ち続けた」と話す。

次の目標は2022年に予定されているアジア競技大会への出場。「目の前の壁を一つ一つ登っていく。今後も練習に励み、強くなりたい」と意気込んでいる。高橋尚之(経営2)

木村 悔しい3位

女子S

全日本学生選抜卓球選手権大会 11月27、28日、宮城県・カメイアリーナ仙台

女子シングルスで木村香純(経営4・四天王寺高)が3位に終わった。木村は準決勝で敗れたものの、3位決定戦を4-1で制した。優勝を狙っていたので、とても悔しい。まだTリーグと全日本選手権があるので、仕切り直してベストな状態にもっていき、いい結果が出るように頑張りたい」と次の試合に向けて気持ちを切り替えた。専大生としての日々が少なくなる中、木村の飛躍に期待だ。(原熙・文1)

松岡 5位

全日本学生馬術選手権大会・全日本学生馬術女子選手権大会 11月26、28日、岡山県・蒜山ホースパーク

選手権に丹治翔(経済4・福島東稜高)と松岡翼(文3・都立農芸高)が、女子選手権に梅田望結(文2・都立農芸高)

が出場。各自がベストを尽くし、松岡が5位に入賞した。

松岡は「初めての競技場で、初めて騎乗する馬との競技だったため、難しい面があった。今回の経験を糧に、来年はさらに上位に食い込めるようにしたい」と語った。(井山十萌・文1)

3拳士が躍動

少林寺拳法全日本学生大会 11月7日、千代田区・日本武道館

個人の部・男子単独茶帯で中條海鳳(文3・府中高)が3位。男女白帯

86kg級で川原大夢(文3)がそれぞれ3位に入賞。順位ポイントによる大学対抗得点は29・5点で、団体5位に終わった。

金子は「今まで以上に食事やコンディショニングなどに気を配ったが、まだ自分に甘いところがあり、優勝を逃してしまっ

た。12月の全日本選手権大会では、頂点目指して頑張りたい」と語った。

西田は「3位入賞はうれしいが、優勝にはまだまだ遠いと感じた。フリーもグレコもトップに立てるような選手を目指し、経験を重ねていきたい」と語った。(寺田美結・文3)

記録コーナー

◇弓道部

▽東京都学生弓道男子リーグ入れ替え戦(10月30日、専大弓道場)2部復帰

◇剣道部

▽関東学生剣道新人戦大会(11月27日、東京都ベスト8)

◇相撲部

▽東日本学生相撲リーグ戦入れ替え戦(11月14日、東京都Aクラス復帰)

◇バスケットボール部

▽関東大学バスケットボールリーグ戦(10月2日、11月7日、茨城県ほか)8勝3敗11位

▽シニア湘南高)が優秀選手賞、MIP賞を獲得。

◇野球部

東都大学野球秋季リーグ戦(2部)9月28日、11月8日、神宮球場ほか)6勝3敗1分け12位

※南保良太郎(経営3・星稜高)が首位打者。

専大スポーツ

No. 424

専大スポーツ 編集部 公式 WEB

Twitter @sensuponow Instagram sensuponow



専大スポーツ 編集部 公式 WEB

専大スポーツ 編集部 公式 WEB